

平成22年度博物館施設評価シート（22年度・実績報告）

施設名	埼玉県立歴史と民俗の博物館
-----	----------------------

評価基準		
十分	目標値+10%以上	5点
達成	目標値+5%以上	4点
ほぼ達成	目標値±5%未満	3点
やや不十分	目標値-5%以下	2点
不十分	目標値-10%以下	1点

資料の収集・保管	常設展示や特別展示等の充実及び人文系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集方針及び資料評価会議の指導に基づき、必要な資料を計画的に収集する。また、収蔵庫の防虫消毒及びIPMも積極的に推進する。
----------	--

視点	項目	指標	目標値		評価 (見込)	特記事項
			達成値			
資料の充実・有効活用	館有資料の拡充状況	1 館有資料の充実	438	点	1	過去3年平均実績中の10%増（但し一括保管転換分は除く） 29件 74点
			74	点		
	館主催事業等での利用状況	2 資料の活用	2,554	点	1	過去3年実績平均値の10%増 館内での活用 507点 館外での活用 51点
			558	点		
	外部からの要請等による利用状況	3 館蔵資料貸出	40	件	1	過去3年実績平均値の10%増 館外貸出件数 15件（73点）
15			件			
	4 資料特別利用	324	点	5	過去3年実績平均値の10%増 写真原板利用等476点 資料撮影 22点 資料熟覧 25点	
		523	点			
	5 資料データの活用状況	5 データベースの活用状況	16	点	1	過去3年実績平均値の10%増 スキップステーション画像提供 8点
			8	点		
サービスの水準	常設展示	6 総合的な満足度（「満足」の割合）	75	%	3	全館共通 335/440
			76	%		
	企画展示	7 総合的な満足度（「満足」の割合）	80	%	3	全館共通 976/1268（雑兵556/610 ヒーロー178/376 古代寺院248/282）
77			%			
生涯学習支援	8 普及事業の総合的な満足度（「満足」の割合）	80	%	5	全館共通 196/196	
		100	%			
利用状況	入館者	9 一日あたりの入館者数	554	人	1	過去3年実績平均値の10%増 年間開館日数 208日 総入館者数 93,138人
			447	人		
	企画展示	10 一日あたりの観覧者数	185	人	3	過去3年実績平均値の10%増 年間会期日数113日 総観覧者数 21,827人
			193	人		
生涯学習支援	11 普及事業への参加率	85	%	5	全館共通 募集総定員数 763人 参加総実数 725人	
		95	%			
	12 レファレンス	190	件	1	過去3年実績平均値の10%増×0.7（工事休館による個別事情を反映） レファレンス実数 114件	
		114	件			
広報	13 インターネットでの情報利用	69,966	件	5	過去3年実績平均値の10%増 アクセス件数 156,950件 更新件数 142件	
		157,092	件			

広報	14	広報	192 件	5	過去3年実績平均値の10%
			419 件		マスコミ等への情報発信数 282 件 マスコミ等での掲載件数 137 件
学校支援	学校利用受入	15	72 校	1	過去3年実績平均値の10%増×0.7(工事休館による個別事情を反映)
			43 校		利用内容別学校数の内訳 小学校 26 中学校 2 高校・大学15
	児童生徒利用	16	6,448 人	5	過去3年実績平均値の10%増×0.7(工事休館による個別事情を反映)
			7,266 人		児童・生徒数の内訳 小中学生 6,181 人 高大生 1,085 人
学校連携	17	26 件	5	過去3年実績平均値の10%増最高値	
		32 件		ゲストとしての職員派遣数 10 件 教育普及資料等貸出数 3 件 館内での連携事業等の取り組み 19 件	
ボランティア	18	ボランティアの活動	1,886 人 1,913 人	3	過去3年実績平均値の10%増×0.7(工事休館による個別事情を反映) 活動日数:展示 206 日・体験 207日 活動内容別人数:展示 750 人・体験 1,163 人
調査研究	19	研究成果の公開(発表会・印刷物等)	2.9 件 2.5 件	1	過去3年実績平均値の10%増 合計 63 件
その他	20	施設の活用	65 %	3	過去3年実績平均値の10%増
			68 %		利用可能日数 208 日のうち 講堂・講座室利用日数 143 日
効率的経営	21	博物館の自立度(観覧料および事業等収入)	10,993,000 円	1	22年度予算計上額
			9,323,439 円		観覧料 5,169,150 円 ゆめ体験ひろば等 3,575,919 円 特別利用 528,700 円 施設利用 49,670 円
各館別項目	22	市町村連携	43 件	5	過去3年実績平均値の10%増
			64 件		職員派遣 44件 連携事業 20件
	23	友の会との連携	15 件	3	過去3年実績平均値の10%増
			15 件		講演会・見学会 14 件 体験学習等 1件
24	大学等との連携	17 件	1	過去3年実績平均値の10%増	
		10 件		ミュージアムカレッジ、見学実習等 10 件	
25	安全管理	資料管理(IPM等)	25 回	5	月2回のIPM実施と殺虫消毒 収蔵資料管理要項・展示資料の安全確保マニュアルに基づいた管理
			82 回		実施回数 IPM 28回 その他 54回
総合評価			合計評価点(見込)	達成度(合計評価点÷測定値設定数)見込	
			73 点	97 % [73 点 ÷ (25 項目 × 3 点)] × 100	

評価	総合評価では達成度97%と、工事休館があったわりにはまずまずの数値を確保した。3月15日に予定していた再オープンは地震により出鼻をくじかれた感があるが、3月17日の開館以降は、計画停電等の影響があった割には、工事休館にともない、資料の貸し出し中止期間を設けた関係などにより、資料関係の評価点は低調であった。反面、工事休館を利用し、館外活動に積極的に取り組んだ結果、学校支援や市町村連携の評価点は高くなった。また、ここ2年をかけて強化を図ってきた広報戦略の効果が徐々に現れており、広報関連の評価点も高く、企画展観覧者数もはじめて目標値を超えることが出来た。
課題	2年連続の工事休館の影響で、学校団体利用のリピーターが離れてしまっている。かつて利用いただいていた学校に対し、重点的に働きかけ団体利用数を回復させる必要がある。また、資料活用についても展示への活用だけでは頭打ちとなるため、データベース活用や映像資料の公開等もふくめ改善を図りたい。さらに、入館者や所蔵資料の震災対策についても、「想定外」をいわずに万全な体制づくりに取り組むべきである。
対応の方向	広報戦略会議において「入館者倍増の手引き」を作成した。次年度は久しぶりに通年開館となり、正月臨時開館も予定している。また、開館40周年にもあたり、実施事業もより充実したものを企画しており、入館者、展示観覧者、事業収入とも大幅なアップを図りたい。

基礎データ

職員数(学芸員数)	37人 (25人)	総予算額(人件費を除く)	95,103千円	職員1人あたりの県民人口	19,4万人
収蔵資料点数	121,448点	事業経費(上記の内数)	95,103千円	利用者1人あたりのコスト(平成21年度)	1,083円
平成21年度収蔵資料点数	7,180点	特定財源予算額(うち観覧料収入)	10,993千円 (5,838千円)	県民人口に対する利用者の割合(平成21年度)	1.26%

(注)平成22年4月1日現在の埼玉県推計人口は 7,179,020 人である。

博物館協議会の意見とその対応

全館共通の意見

指摘事項	指摘意見	意見への対応
評価項目全体に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の総括表を見ると、評価1の項目が多い割には総合評価では100%近い結果が出るなど、現行の評価システムは実態を正確に反映していないと思われる。 ・評価シートの最後の部分に基礎データの項目がある。利用者一人当たりのコストなど、納税者の立場からすると関心の高い数値である。こういったデータも評価システムの中に組み込むことは出来ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・23年度の新しいシステムでは抜本的に見直しを図っている。 ・23年度の新評価システムの中で、総合評価の中でそういったデータも反映できる方法を取り入れるべく検討したい。

博物館協議会の意見とその対応

歴史と民俗の博物館への意見

指摘事項	指摘意見	意見への対応
<p>企画展示の総合的な満足度に 係る事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒーロー展の満足度が低い結果となっているがなぜか。 ・資料点数が少なくなった原因はなにかあるのか。 ・企画展や特別展の内容は担当レベルだけでなく、館全体でチェックしているのか。 ・展覧会事業は重要であるので、脇が甘くならないように今後ともきちっと対応すべきである 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料点数が少ないなど、ボリュームの点においてこれまでの企画展と比べて満足いただけな ・ヒーロー等のキャラクターものは著作権等が複雑にからんでおり、また予算的な制約もあり、当初予定していた資料が借用できなかった ・事業担当、GL、主席、副館長、館長といったラインでチェックしている。 ・指摘を重く受け止め、今後とも全館体制で対応して参りたい。